

紋白蝶

あでやかな凌霄花（のうぜんかずら）を見ながら  
何を考えているのかと問われれば

きみの唇だと答えざるを得ない

柔らかで

熱く

ぼくを溶かしてしまふ

きみの唇

誇り高くつんつんと咲く白い泰山木（たいざんぼく）の下で  
何が欲しいかと聞かれたら

それはきみの腕

ぼくを抱きしめ

しなやかにからめとり

離すまいとするきみの腕

からみあう二羽の紋白蝶のように

きみと戯りたい

そんなことばかり考えているのかと笑われたら

どうもそうらしいと照れるよりない

空が熱い

